



千八百七十八年十月廿六日刊行「シマツン」タイムス新聞抄譯

大藏省
翻譯課

貿易ノ景況ヲ論ス

31

4164



114
A3198



「ヤッパン、タイムス」新聞抄譯

一千八百七十八年十月二十六日刊行

○貿易ノ景況ヲ論ス

外國貿易ノ方今ノ景況ヲ觀ルニ曩ニ日本ノ各國ト通商條約ヲ
 結ビシ以來現今ノ如ク其凄凉タルトハ未タ曾テアラザリキ輸
 入品ハ殆んど歩ヲ止ムルニ至リ又輸出品中第一等ノ地位ヲ占
 有シタル生絲ハ一「ポンド」ニ付キ十四「レルリ」グ「六」ペン「ス」ニ價
 位低落ニ高買ハ從前ノ物ニ比スレバ實ニ驚クベキ低落ナルニ
 此ノ如キ低價ニテモ尚ホ賣買ヲナシ難シ畢竟右ノ如ク生絲ノ
 低落セシハ歐洲ニ於テ絹ノ製造物夥多ニシテ供給ノ需要ニ起
 過セシニ帰宿スルハ必然ナリ

夫レハ國ノ文志 眞實スルニ時好ノ変移ハ十年又ハ十二年ノ

前田利器譯

大正十一年四月
侯爵軍号贈

是時ノ經過ニ 交換セシメハ未ダ曾テアラザルナリ然ル
ニ時様ノ交換速カナル今日ノ如クナルハ奢侈榮耀ナル社會
ノ多ク消費セル產物(絹ノ如キ)ヲ販賣スル者ノ為メニ軍モ不便
ナル影響ヲ及ホセリ然ルニ往昔ニ於テハ婦女ハ安シシ絹布ノ
衣服ニ奢侈ヲ逞フセリ其故ハ絹布ハ其物質ノ當ニ堅牢ナルト
價位ノ貴キトニ依ルノミナラズ其衣服ノ形状裁縫ニ就テ久シ
ク其時様ノ廢タルベキヲキヲ婦女目ヲ信シタレハナリ然リト
虽氏今日ニ於テハ右ノ如ク久シク時様ノ繼續スルヲナク其添
色形状裁縫毎季ニ変レ甚シキニ至テハ季内ニ變スルヲアリ蓋
シ時様ヲ管理スルモノハ新ナル時様モ益々新工夫ヲ加ヘタル
物ニ之ヲ交換スルノ及テダケ迅速ナルヲ要旨トスルガ如シ是
ヲ以テ富且貴キ物質ヲ廢棄シテ廉價ナル製造物ニシテ修飾以
テ美ヲ生スベキ久シキニ堪ヘザル性質ノモノヲ採用スルモ當

時ノ如キ變レ易キ時様ニハ尚ホ堅牢ナル性質ト云テ可ナルベ
レ是ヲ以テ之ヲ觀レバ絹布ヲ使用スルモノ益々減少シテ絹布
ハ唯裝飾ニノミ使用スルニ至ラン故ニ數年來生糸市場ノ常ニ
衰萎ニ赴キシヲ警惕スル者一人モナカルベシ尤モ其價格ノ騰
貴スルアルモ投機賣買ノ為メニ一時供給需要ノ多寡ニ從テ價
格ノ低昂スル普通ノ理ニ從ヘルノミ
斯テ魯細亞土耳其ノ戰爭鎮定ノ後テ貿易ノ景況ヲ挽回セント
スルモノ、宿望ハ到底充分ニ之ヲ実行スル能ハズ又本國ヨリ
ノ報知ニ依レバ貿易ノ景況ニ幾分カ回復ノ色ヲ顯ハスハ彼ノ
バルリシ日耳曼ノ都天會議力條約結了ニ因ルニ此條約中ノ各款
ヲ履行スルニ當テ相遇スベキ困難事ト東方論ニ就テ驚クベキ
光景トハ人々ノ信任スル所ト相違ス而シテ製造人及ニ高價ハ各
々、心翼々トシテ六業ニ從事シ勇氣ヲ出スラ厭フニ至リタリ

上ニハスルガ。見今時様ノ変スル速ナルノ風習金止ムニ
アラザレバ生糸貿易ノ衰態ハ依然トシテ変セザルベシト是レ
人々ノ確乎トシテ動カザル思想ナリ
右ノ形勢ナルニ依リ價格ノ低落ハ以テ生糸ノ産出ヲ遏止スベ
シト雖モ其産出ノ減サハ以テ其價格ヲ騰貴セシムルノ效ヲ奏
セザルベシ即チ生糸ノ貿易ヲ縮小シ日本國ニ於テ第一等ノ地
位ヲ占メタル産物ノ製造ニ強テ制限ヲ立テ以テ日本國ノ資産
ヲ減サスル
又英國及ヒ其他ノ國々ニ於テ本綿貿易ノ景況ハ非常ニ薄弱ナ
リ是レ主トシテ其産出ノ過度ナルニ歸スルハ辨論ヲ待タズレ
テ明ナリ但シ過度ノ産出トハ唯需要ニ餘レル産出即チ消費者
ノ購求ニ餘レル産出ヲ云フ是ヲ以テ過度ノ産出ト云ヘル語ハ
事物ノ權衡ヲ失セルトニ関シテ用フルト雖モ亦時アツテ盛大

ナル需要ノ衰ヘシトニ用フルトアルベシ
当令ノ政州ノ觀ルニ本洲大陸ノ各國過半ハ國カヲ奉テ軍隊ノ
編制ニノミ尽シ其國々ノ人口中数百万ノ壯士ヲシテ生財上ノ
勤勞即チ所謂資財ノ増殖ニ從事スルヲ得ザラシム尚又此損失
ニ加フルニ軍兵ノ扶助及ヒ多クノ武具ヲ齊整具倫スルニ無教
ナル巨費ヲ要ス此ノ必要ナル巨額ノ費用ヲ徴収スルハ現今過
重大ナル保護税ニ依レリ但シ此保護税ニ就テ公言スベキ大意
ハ一定ナル工業ヲ進歩セシムルニアリト雖モ到底自國ノ損害
ニシテ國民ノ直接ニ拂フ兵ノ費用ナリ是ヲ以テ政州ノ貧ニシ
テ國民ノ買収スル能力ノ大小ニ因依セザルヲ得ザル必ノ貿易
ヲ縮小シテ損害ヲ來タスハ敢テ驚クニ足ラズ又当然ナルベシ
是等ノ景況ハ國民ト政府トノ白痴ナルニ歸スレバ實際ノ經驗
ヲ以テ事ヲ憂ヒイゾ之ヲ挽回スルヲ得ザランヤ蓋シ千九百

年々懐慨家ノシテヲシテ杞憂ヲ共ニセシムベキカ如クナリ
又固ヨリ人間交際上ニ控テ好悪ノ景况轉變アルハ必然ノ理ナリ
大槩東方諸國特ニ日本國ノ形勢ヲ察スルニ通用貨幣ノ景况ハ
總テノ商業上ニ大ナル凶徴ヲ顯シタリ
叙テ今ヲ距ル一二年ニアツテ弗ハ四「シルリン」四「ペンス」乃至
四「シルリン」六「ペンス」ノ値ナリシグ曾テ窳モ低落シテ東方諸國
ニ在ツテ三「シルリン」七「ペンス」トハ分ノ三ニ至リシハ人々ノ能
ク知ル所ニシテ優等ナル貨幣論者ノ説ニ由レバ右ノ如キ弗ノ
價值ハ次シテ其窳下ノ点ニ達シタルニハアラザルベレト是ヲ
以テ輸入ハ窳大至重ノ危害ヲ注意セザルベカラズ故ニ銀市場
ノ人氣靜穩ニ歸スルマテノ良法ハ(若シ之ヲ行フベクンバ)總テ
ノ輸入ヲ停止スルニ如クハナシ夫レ當今垂米利加銀ノ回復ハ
其影響ヲ紙幣ニ及ボセシノミニテ其銀ヲ以テ廣大ナル銀價ヲ

鑄造セントスル先見ノ如クナラス然ルニサン、フランシスコ銀
山ノ株式市場ノ猖狂ハ銀ノ供給ヲ一層増加スルノ前表ナルガ
如シ此猖狂ハ尙ホ未タ正マザル理財論者ノ數回ノ議論ナリ尤
モ銀價ハ量目一「オンス」ニ付キ三「シルリン」或ハ五「シルリン」
ナルモイツレモ銀價低昂ノ極点ニ至ラズ屢々價值ノ大變動ヲ
受クベキナレバ真貨幣ヲ純ラ銀ノミニテ用フル國々ノ貿
易ハ銀價低昂ノ害ヲ受ケザルヲ得ズ故ニ高價ノ銀價ニ付キ交
換上重大ナル低昂ノ害ヲ被ルハ之ヲ前言スル能ハズ何トナ
レバ右ノ低昂ノ根源ハ所謂天然ナルモノニアラズ即チ投機賣
買ノ所為ニ歸スルヲ以テナリ是ヲ以テ商賈ハ先見警戒スル能
ハザル交換上意外ナル價位ノ低昂ニ依リ前ニ利益ト覺ヘシモ
ノハ之ヲ拭消シテ全ク損耗ニ變セリ故ニ商業上ニ賭博ノ模様
ヲ顯シ深慮アルモノハ過半小心翼々トシテ到底意外ノ損耗

ヲ此ニハルノミヲ注意セリ

紙幣ノ低落ハ其數ノ増進スルニ從テ銀價動搖ノ爲メニ釀成
ル輸入貿易ノ困難ヲ増セリ是ヲ以テ賣主買主ハ各々行爲上ニ
同シク定テザル成呆アリ即チ賣主ハ損耗ヲナシテ交換シタル
真貨幣ヲ掃ヒ此真貨幣ヲ以テ買収シタル物ヲ販賣スルニ際シ
テ買主ハ賣主ノ買収セシ時ヨリ一割乃至二割モ低價ナル紙幣
ヲ以テ之ガ掃ヲセリ

實經濟家ノ一黨ハ紙幣^幣正金ニ優レリト思フベシト雖モ一紙
幣ハ有信政府ノ發行シタルモノニテモ無利息ノ強需債ナリ然
レモ無信政府ノ發行シタルモノニ至テハ即チ盜ト一般ナリ何
レノ場合ニ於テモ到底紙幣ハ國民中へ大小損害ヲ及ボスモノ
タルハ敢テ疑ヲ容レザル所ナリ
抑紙幣ノ低落ハ始メ一般ノ人民ニ其影響ヲ及ボスヲナク唯直

接又ハ間接ニ外國貿易ニ関スル一大黨輩ニ其感觸ヲ及ボシ不
幸ナル模様ヲ顯ハスノミ然レモ一般ノ人民へモ早晚其感觸ヲ
及ボシ一般ノ物價騰貴ト正金引換ヲナサント欲スレモ得ベカ
ラザルトヲ以テ困難ヲ受クベシ而テ紙幣流通ノ額ハ幾許ナル
ヤ之ヲ細察ニ確定スル能ハズ

我日本國ニ銀行ハ紙幣發行ノ爲メニ準備ヲ置キ以テ發行シタ
ル紙幣ヲ近頃政府ノ賣買讓渡シノ禁ヲ解カレタル金祿公債証
書ニ交換セントヲ喜フベシ是ヲ以テ之ヲ觀レバ銀行ハ所謂ル
大貿易ニ用ヒ難キ價位ナキ紙幣ヲ保持センヨリハ寧ロ損耗ヲ
ナスモ政府ヲ債主トスルヲ優レリトスルヤ必然ナリ抑紙幣ヲ
發行スルハ止ラ得ザル下策ナリト雖モ又時勢ニ依リ其發行ノ
額ニ相当ナル制限ヲ立テ以テ此定度ヲ失ハザル間ハ又正路
策ニタルトアルベシ然リト雖モ紙幣ノ弊害タルニアリ其一ハ

則其發行額ノ相当ナル制限ヲ知リ以テ此定度ヲ保持スル
難シ又其一ハ則チ其發行額相当ナル制限ヲ超過スレバ其結果
ハ常ニ不相当ノ低落ヲナス等是ナリ
然ルニ日本國ニ於テ紙幣ノ正金ト同價ナリシハ永遠繼續スベ
カラザル理由ニ歸セリ其第一ノ理由ハ國民紙幣ノ何物タルヲ
知ラザリレト曰幕府時代ニ於テ少額ノ鑄造貨ニテ百般ノ事
ヲ辨セザルヲ得ザルヲ以テ常ニ其乏シキニ苦ミシトニ因依ス
蓋シ現今紙幣價格ノ動搖ハ過半一大投機蓋シ金銀本位
行ノ意ヲ云フカノ影響ヲ及ビモシモナ
ラシ果シテ然ラバ之ヲ救済スルノ道モ亦難ニアラザルニ是何ゾ一時人心ノ驚慌ニ
由テ紙幣ノ價格動搖スル下向ナリ信スヘケンヤ然レバ紙幣ノ發行愈
々多ケレバ益々國家ノ完乏ヲ招クハ喋々ヲ俟テ知ルニアラザ
ルナリ然ラバ則チ過度ニ紙幣ヲ發行スレハ常ニ貿易ヲ感ナラ
シメザルノミナラズ却テ外國品ヲ多ク買収スルヲ得ザラシ

ム
上文ニ論シタル形勢ヲ救済スルニハ賢良ナル政略ヲ施スノ外
ナカルベシ先ツ紙幣ノ發行ニ制限ヲ立テザルベカラズ貿易ハ
唯々保護税法ヲ以テ私利迷惑セラレステ自由寛濶ナル政略
ヲ以テ之ヲ隆盛ナラシメザルベカラズ政府ノ費額ヲ勉メテ節
減シ農民ノ稅歛ヲ薄フマザルベカラズ政府ノ巨大ナル貨幣ヲ
費スルハ全ク無益ノ事業ニ費スト云フニハアラザレバ到底目
下日本ノ國益ヲ振作スルアラズ故ニ右ノ如キ政略ハ手ヲ止メ
政府ノ業ヲ興起スルハ先ツ國民進歩ノ度ヲ謀リ國民ノ歩行ニ
得ベキ事業ノ先導者タラザルベカラズ而レテ西洋文明ノ第
純ラ模倣スルノミニテ欧州ト同一ナル美菓ヲ結フベシト誤認
セザラシト要ス
我輩記者ハ若シ外國高人ノ各自ノ營業ニ就テ高議アラバ必

ス言ハン戒慎ヲナスベシト然リト虫氏谷白ノ知識ト從来ノ經
驗トヲ以テ既ニ明解シタルナルベシ是レ我輩記者ノ其法則ヲ
就テ敢喋々セザル所以ナリ

